いまだ木鶏たりえず

―連載―

私が大切にしている言葉

第81回

有光工業 株式会社

取締役会長　有光 幸紀 氏
（大阪府工業協会　副会長）

昔の中国の話です。闘鶏の好きな王様が、軍鶏（しゃも）を養成調教する名人に一羽の鶏の訓練を命じました。

10 日ほど経った頃、王様が「どうだ、使えるようになったか」と問うと、名人は「まだ空威張りして闘争心があるからいけません」と答えました。

また 10 日経ち王様が問うと、「まだいけません。ほかの鶏の声や姿を見ただけでいきり立ってしまいます」と名人。

また 10 日経ち、同じく問うと「まだです。ほかの鶏を見ると睨みつけて、圧倒しようとするところがあります」と答えます。

さらに 10 日経つと、名人は「もう良いでしょう。ほかの鶏が鳴いても、まったく相手にしません。まるで木彫りの鶏のように泰然自若としています。徳が充実している証拠です。こうなればどんな鶏も姿を見ただけで逃げ出してしまうでしょう」と王様に言いました。

これは「荘子」に出てくる木鶏という逸話です。

日本でこの話が知られるようになったのは、昭和の大横綱「双葉山」が 3 年間連勝を続け、70 勝目がかかった取組で黒星を喫したとき、師と仰ぐ安岡正篤氏に「イマダモッケイタリエズ」と電報を打ったと報じられたことがきっかけです。

双葉山は、木で作った鶏のように無心の境地に至れなかった自分を戒め、さらなる精進を誓ったのです。これは 1939（昭和 14）年のことでした。ちなみに、大相撲の 69 連勝記録というのは、現在も破られていません。

有光氏が常に執務机に置いている「木鶏」

1987（昭和 62）年、私が父聿郎から経営を引き継いだとき、社長の心得として教えられたのが、「木鶏」を目指せということでした。

日々の小さなこと一つ一つに悩み、傷つき、怒り、心を乱しているようではだめだ、木彫りの鶏のようにどんな挑発にも超然と構える最強の闘鶏たれという教えです。

企業経営にあてはめると、社内であれをやれ、これをやれといちいち指示を出している社長は未熟だ。そんなことでは会社は回らないし社員も成長しない。社長はどっしり構えて、社員が自ら考えて動く組織をつくらないといけない、ということだと思います。

さらに、もし何かトラブルがあっても、社長は慌てず、騒がず、自然体で対処することが大事です。

製品に置き換えても同じことがいえます。営業が一生懸命売り込んだり、値引きをしたり、広告を打ったりしなくても、本当に良い製品ならば、見ればその良さがわかる。ライバルの製品も凌駕する。まさに戦わずして勝つ製品づくりを目指さなくてはなりません。

このように「いまだ木鶏たりえず」という言葉は、経営においてとても大事な要諦を教えてくれています。

夢、夢、夢を追う
そして、実現
そして、楽しく

これは創業時から有光工業の根幹をなしている経営理念です。

仕事とは、お客様の夢、会社の夢、社員の夢、それぞれの夢の実現に向かって邁進することです。夢の実現に向かう道中はつらく、苦しいこともある。しかし、それを乗り越える努力があってこそ夢は実現します。努力をするなら、楽しくやっていきたいと思います。

昨年（2023 年）、創業 100 周年を迎えたのを機に、会長に就任しました。経営は社長に任せ、私は極力見守る姿勢を心掛けています。少しは「木鶏」に近づけたのではないかと思っています。

会社概要

ARIMITSU

◆本社所在地　大阪市東成区深江北 1 丁目 3 番 7 号
◆事業内容　産業用・農業用・環境衛生用高圧ポンプ、洗浄機、防除機等の製造・販売・輸出
◆創業　1923（大正 12）年 4 月
◆資本金　1 億 5,000 万円
◆従業員数　210 名

企業サイトにリンクします ▶

本社ビル

この連載は、人それぞれが「大切にしている言葉」を、経営者のみならずさまざまな立場の方から、エピソードを交えてご紹介いただくものです。